

日本学術会議
臨床医学委員会 子どもの成育環境分科会（第25期第13回）
議事録

日時：令和4年8月1日(月) 18:00～19:00

場所：遠隔会議(zoom)

出席者：山中（委員長）、西田（副委員長）、浅野、大倉、定行、都築、中坪、吉野、水口（敬称略）

冒頭に山中委員長から、本日の議事として、7/23に開催予定のシンポジウムの報告、および、学術の動向の企画の説明があった。また、西田副委員長から、アンケート結果の報告があった。以下のとおり、それに対する意見・コメントが出された。

- 充実したシンポジウム。構成もよかった。勉強にもなった。消費者庁の取り組みも分かった。後半の先生方も勉強になった。北村先生のシステム構築は参考になった。西田のパートは、今回のまとを得た話に聞こえた。提言のまとめがあれば、さらに良かった。
- 興味深かった。たくさんの登壇者で、短かったので、もしかしたら、不十分で、時間がたりないのではと思っていたが、時間通り、短い時間の中でエッセンスをまとめていた。矢口さんの地方議員が指摘していた国の取り組みの必要性、出口さんの話は、大村市の大きさでできている感じが、他の地域の課題もありそうである。事故予防ばかり進めると、保育が委縮してしまう可能性を危惧している。
- 盛りだくさんだった。保育園や幼稚園の看護職への教育の質問があった。全体ではすくないので、ネットワークをつくっていく必要がある。小児看護学会にサブグループができると良い。保育園や幼稚園の看護職の現状の調査が必要ではないかと感じました。
- 勉強になった。本来の目的は、傷害のデータベースであるが、保育園や幼稚園の看護職も含めネットワークを作ることの必要である。オンライン上でのネットワークづくりも必要である。宮地先生の分散させておくという発想は新しく感じた。プライバシーを守りつつ、必要な情報をとる方法は大事。
- 全体として盛りだくさん。資料として後から確認できた。データがいろんなところに散逸している印象を持った。学術会議での活動が有意義だと感じた。
- 盛りだくさん。アンケートの結果をざっとみた。ネットワーク化が必要ではないかと感じた。
- 今回のシンポジウムで、現在のシステムの問題点が明らかになった。提言をまとめるのに、参考になる意見がでたと考えている。
- 意思の表出については、もう提出している委員会もあり、早めに行った方が良い。

以上の議論を行い、次回の議題として、見解の内容に関する議論を行う予定である旨の説明がなされ、閉会となった。